

富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院改築工事 工事進捗状況 第Ⅱ期工事 10 月度

主な工事内容	バルコニーPC板の取付及び床躯体工事が完了し、内部では間仕切り壁工事が進んでいます。	撮影日 2012.10.30
--------	--	----------------



南西面



1F外来ホール

【屋外階段鉄骨】

火災や地震などの非常時に、外部へ避難するための屋外階段です。

鉄骨建方が完了しました。このあとは、外壁ルーバーを取り付けて完成となります。

【外部バルコニーPC板取付完了】

先月紹介したプレキャストコンクリート(PC板)は6階まで全て取付けが完了し、新西診療棟の形が見えてきました。

残りの作業としては、アルミ製サッシの取付や押出成形セメント板の取付、シーリング工事などを行います。

【間仕切り壁下地工事進行中】

B1Fから壁間仕切りの下地工事が進んでいます。10月末現在では1Fの間仕切り工事が行われており、今後は上階へと順番に施工が進んでいきます。

壁下地には、部屋の出入り口となる建具枠が取り付けられ、今後は壁下地に、石膏ボードを貼る作業が進んでいきます。

【耐火被覆工事進行中】

火災時に鉄骨が溶けるのを防ぐため、岩綿(ロックウール)を鉄骨部分に吹き付けます。岩綿の吹き付け厚さの違いによって耐火性能が変わるため、階数ごとに基準となる厚みが定められています。

岩綿は石綿とは違い、人体にとって無害なので安全です。

工事解説

地上躯体工事の流れを説明します。

撮影日 2012.10.30

鉄骨関連工事

鉄骨工事として、ボルト本締め、現場溶接、デッキ敷き込み工事がおこなわれます。

今回は、床の鉄筋が半分付いたデッキを使用しています。

あらかじめ鉄筋が付いているため、工期の短縮が図れます。



鉄筋工事

PC板の取付がおわったフロアから、床の鉄筋を組み立てていきます。

鉄筋付のデッキを使用しているため、工期も短縮でき、品質上もより良いものとなります。



【地上躯体工事について】

今回は地上躯体工事の手順について紹介します。

鉄骨造の建物では、鉄骨建方が完了し、ボルト本締めや現場溶接、デッキ敷き込みの工事が終わると、床のコンクリートを打設するための躯体工事がおこなわれます。ここでは、その流れを紹介します。

スタッド溶接

鉄骨と床のコンクリートを一体化させるために、鉄骨梁上部にスタッドと呼ばれるものを溶接します。

専門の資格をもった職人さんが等間隔にスタッドを溶接していきます。



コンクリート打設

コンクリートを打ち込みます。

打ち込んだ後は、左官工が床を平らに仕上げます。

これで、床のコンクリートの打設が完了し、次の工事が始まります。



耐火被覆工事

鉄骨は火に弱いので、全体を岩綿で囲い耐火性能をもたせます。

適正な厚みを確保することで、耐火性能をもつ建物となります。



PC板取付工事

バルコニー部分は、現場で鉄筋・型枠工事をするので手間や工期がかかるため、工場であらかじめ外壁タイル張りまでおこなったコンクリート部材を取り付けます。



型枠工事

床のコンクリートが打ち終わったら腰壁の型枠を組み立てます。この階の腰壁は、次の階の床と同じ日に打ち込みます。

この階はコンクリート表面の急激な乾燥を防止するため散水養生をおこなっています。



床セルフレベルング

内装工事の前に、床をさらに水平にするため、セメント系の材料を流し込みます。材料そのものが、自ら精度よく床を水平にすることができます。



この後は内装工事へと工事が流れていきます。